



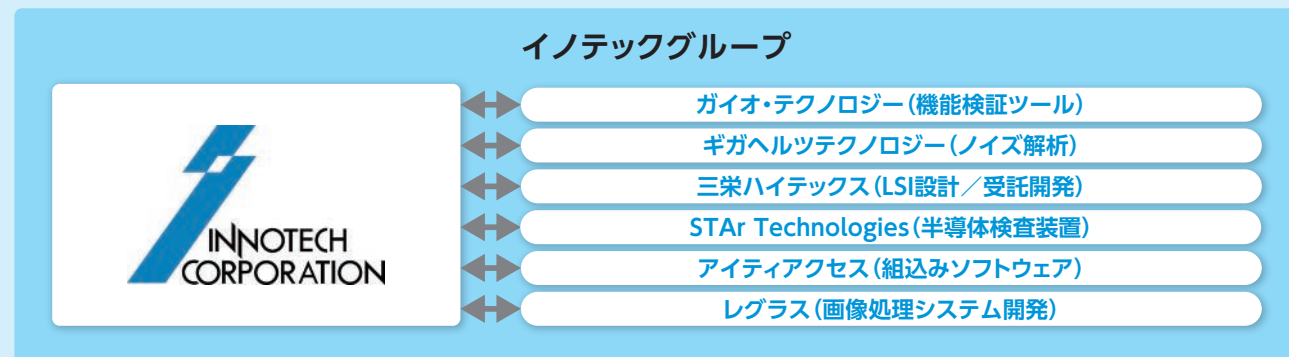
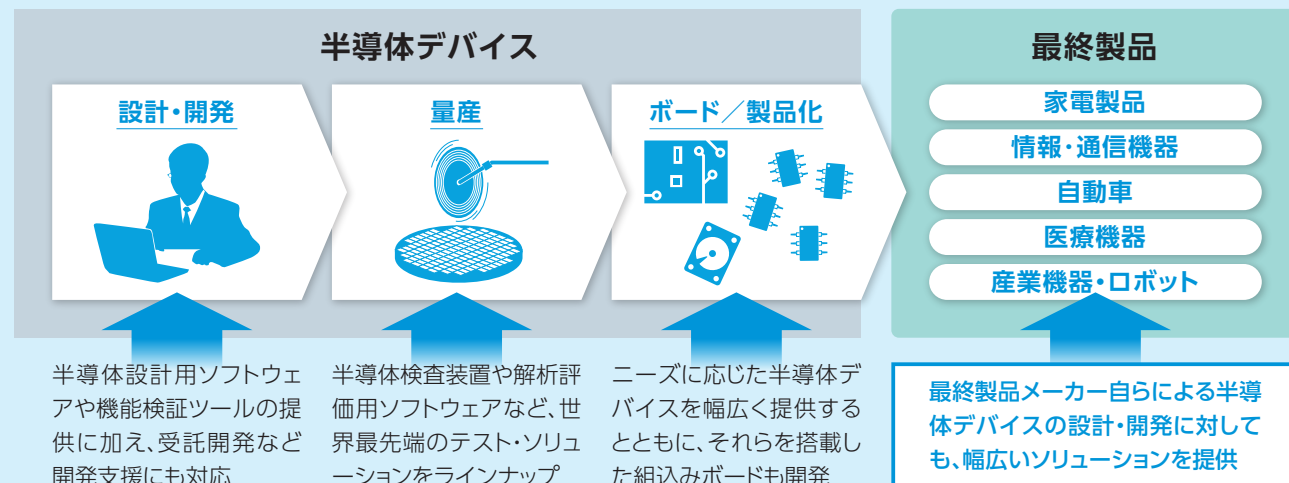
INNOTECH CORPORATION

BUSINESS REPORT

2015年度 中間報告書 2015.4.1-2015.9.30

身の回りのあらゆる製品に組み込まれる半導体デバイス。 その開発から製造までのあらゆるシーンで活躍しています。

スマートフォンや家電製品、自動車など、日々の生活を支える多様な製品の“頭脳”として活躍する半導体デバイス。イノテックグループは、これら半導体デバイスが最終製品に組み込まれるまでの、あらゆるプロセスにおいて、ハードウェアやソフトウェアそしてサービスを含めた多様なソリューションを提供することにより、お客様の製品を通じてより豊かな社会づくりに貢献しています。



中期経営計画に基づく施策を進め、 期初の予想を上回る成長へ。

まずは当第2四半期の経営環境や 業績についてお聞かせください。

2015年度の第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境に改善が見られたものの、新興国経済の減速などにより、景気回復は足踏み状態となり、先行きには不透明感があります。

イノテックグループが参画する先端エレクトロニクス業界では、スマートフォンやタブレット端末など通信機器関連が引き続き堅調に推移しました。民生機器関連では一部に需要回復が見られたものの、全体では厳しい状況が続きました。

こうしたなか、当社グループは設計開発ソリューション、プロダクトソリューションの両事業において、積極的な営業活動や高付加価値な製品・サービスの提供に努めました。その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高167億68百万円(前年同期比27.6%増)、営業利益8億91百万円(同60.3%増)、経常利益9億54百万円(同52.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益6億64百万円(同50.4%増)と、増収増益を達成できました。



今後の成長に向けた戦略や 通期の業績見込みをお聞かせください。

当社グループは、先端エレクトロニクス業界におけるトータル・ソリューション・ニーズの高まりに応えることで、持続的な成長を実現するため、2018年度を見据えた中期経営計画を策定しました。この計画のもとに、大胆な事業構造改革を推進しています。すでに、各事業でその成果が現れつつあり、当下期から来期にかけて業績への寄与が始まるものと期待しています。通期の業績については、2015年11月9日に修正発表した売上高300億円(前期比13.3%増)、営業利益9億50百万円(同31.4%増) 経常利益10億50百万円(同11.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益7億円(同26.6%増)を目指してまいります。

▶ イノテックが目指すもの

- ▶ エレクトロニクス・ビジネスを通じて、人々の生活を豊かで快適なものにし、「未来社会に貢献」する
- ▶ 創造力を駆使、携わるエレクトロニクス業界の技術の進歩に寄与し、「不可欠な存在」になる
- ▶ 我々の真の事業は「問題を解決すること」であり、顧客に満足いただく労苦を惜しまない
- ▶ 先端技術に挑戦し続ける「パイオニア」になる
- ▶ 創造力を発揮できる会社の仕組みづくりに心血を注ぐ、「誇りの持てる」会社を実現する

▶ 配当金のご案内

中間配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2015年11月9日開催の取締役会で決議いたしました。

- 1. 配当金 1株につき7円
- 2. 効力発生日(支払開始日) 2015年12月7日

中期経営計画の進捗

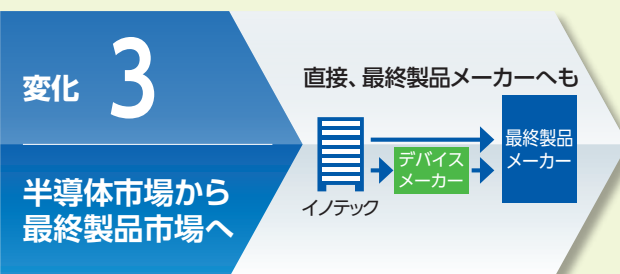
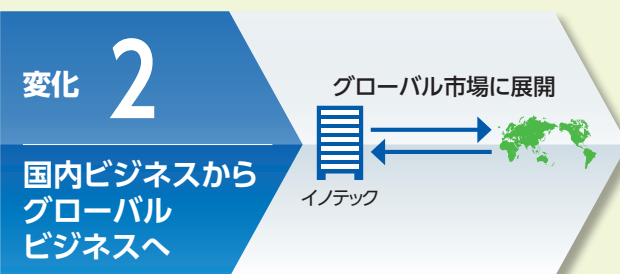
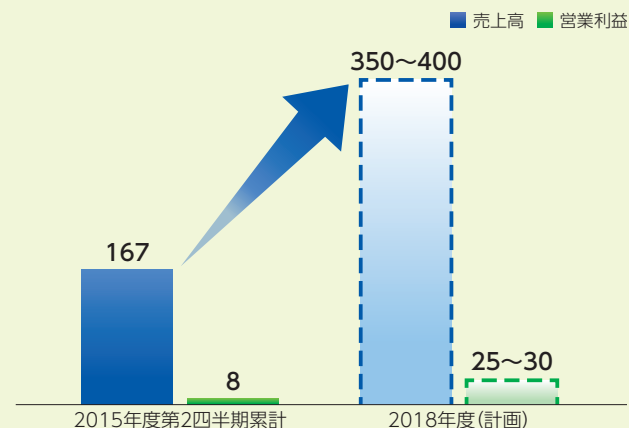
環境変化を捉えた“3つの変化”により 事業構造改革を着実に進めています。

イノテックグループは、環境変化のなかで、中長期的な成長を実現していくため、2018年度を見据えた中期経営計画を策定しました。

この計画では、右記の「3つの変化」による大胆な事業構造改革をグループ全体で推進していくことを成長戦略として掲げています。

計画スタートから1年を経て、すでに各事業でこうした変化が進みつつあります。今回の特集では、それぞれの変化について、進捗の一端をご紹介します。

中期経営計画の数値目標と当第2四半期の達成状況(単位:億円)



変化 1 製品ビジネスからソリューション・ビジネスへ

画像処理システム事業における ソリューション力の強化



拡大する画像処理ニーズへの対応を強化

画像処理システムとは、カメラやイメージセンサーから得られた画像データを処理するシステムの総称です。スマートフォン内蔵カメラや車載カメラなど身近な分野から、医療用画像診断システム、監視システム、生産ライン向けの自動検査システムまで、その用途が急速に拡大しています。

レグラスはイノテックグループにおいて画像処理システム事業の中核を担っていますが、近年の用途拡大にともない、グループ各社が取り組む案件で、新たな画像処理システムの開発・搭載が求められるケースが急増しています。こうしたニーズにタイムリーかつ的確に対応できるよう、レグラス内で営業スタッフを拡充するとともに、グループ各社との連携を強化しています。

高度化・多様化するニーズに最適なソリューションを提供

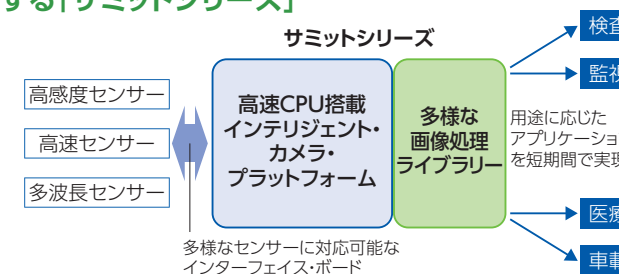
近年の画像処理システムには、ただ「見る」「撮る」だけでなく、検査や計測、異常感知など、より高度な機能が求められており、システム開発にも案件ごとの課題を踏まえたソリューション提案が重視されています。

レグラスは、これまで受託開発を中心にビジネスを展開するなかで、画像処理システムに関わるさまざまな課題を把握し、その解決に寄与する技術とノウハウを培ってきました。こうした強みを活かして、案件ごとの課題を的確に捉えたソリューションを提案するとともに、各社共通の課題を見据えたソリューションを汎用製品として提供することで、事業規模の拡大と、グループ全体の競争力強化につなげていきます。



Pick Up 画像処理システム開発の効率化に寄与する「サミットシリーズ」

画像処理システムを構成する「センサー」と「アプリケーション」は、それぞれ異なる専門知識が求められるため、双方を自由に組み合わせることが困難でした。レグラスは、双方に関する豊富な知見を活かして、多様なセンサーを接続可能な共通プラットフォーム「サミットシリーズ」を開発しました。これを活用することで、最適なセンサーを試しながら、用途・目的に応じた画像処理システムを効率的に実現できます。



変化2 国内ビジネスからグローバルビジネスへ

STArの海外ネットワークを活かした半導体検査装置事業のグローバル化



取締役
テストソリューション本部長
大塚 信行



グローバル市場の成長を取り込むために

半導体市場は、国内では成長が鈍化しつつあるものの、世界的には拡大を続けています。2014年10月に子会社化したSTAr Technologiesは、イノテックグループの半導体検査装置事業に、製品ラインナップの強化とともに、グローバル市場への接点をもたらしました。

STArは本社を置く台湾をはじめ、シンガポール、韓国、中国など、半導体デバイスの需要が高まるアジアに多くの拠点をもち、欧米も含めたグローバルな販売・サポートのネットワークを構築しています。これまで国内市場で培ってきたイノテックの高度なテスト・ソリューションを、STArのネットワークを通じて海外市場に提案していくことで、事業規模の大幅な拡大を実現していきます。

グループシナジーの最大化に向けて連携を強化

フラッシュメモリーやイメージセンサーなど量産品向けの検査装置に強みを持つ当社と、信頼性試験装置やアナログ・パワー半導体検査装置に強みを持つSTArには、高い相互補完性があります。両社のシナジーを最大限に発揮できるよう、日常的なテレビ会議に加えて、定期的に対面会議を設け、コミュニケーションを深めています。

両社の連携を深めるなかで、台湾、中国をはじめとしたSTArの既存顧客に対する当社製品の提案が進展しています。その一方で、STAr製品の日本国内での売上も着実に拡大しています。今後は共同開発や人材交流を進めることで、半導体検査装置分野におけるグローバルトップの地位を確立していきたいと考えています。

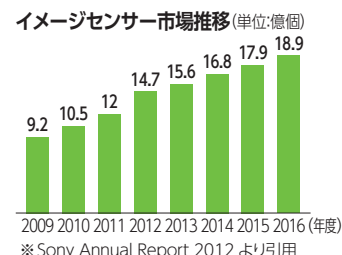
Pick Up

世界シェア・トップクラスの企業に加え、アジアでも注目を集める「Polaris（ポラリス）」シリーズ

当事業の主力製品の1つである「Polaris」は、イメージセンサー用検査装置として高い評価を獲得しており、世界シェア・トップクラスの企業に導入いただいています。近年、スマートフォンの世界的な需要の増加を背景として、イメージセンサーの生産量が拡大している台湾や中国のセンサーメーカーに、STArのネットワークを活かして「Polaris」の提案を強化しています。



イメージセンサー用検査装置「Polaris」



変化3 半導体市場から最終製品市場へ

IoT社会の到来を見据えたデバイス事業の市場拡大



アドバンストプロダクツ本部
布施木 裕之



IoT社会で広がる位置情報システムの可能性

多様なデバイスを取り扱う当本部で、近年、注力しているのが「Beacon（ビーコン）」と呼ばれる無線通信デバイスです。これは、位置情報などを電波で発信するデバイスを設置し、その電波を受信して管理・蓄積するシステムと組み合わせて、人やモノの位置や流れを把握するものです。

IoT (Internet of Things) 社会と言われるように、あらゆるモノがネットワークでつながる時代を迎え、Beaconの用途は急激に拡大しています。物流倉庫での個品管理や、オフィスの入退室管理、さらには蓄積した大量のデータを活用した効率改善やマーケティング分析など、これまでにない市場が次々と生まれています。

デバイス提供から、お客様と連携したシステム開発へ

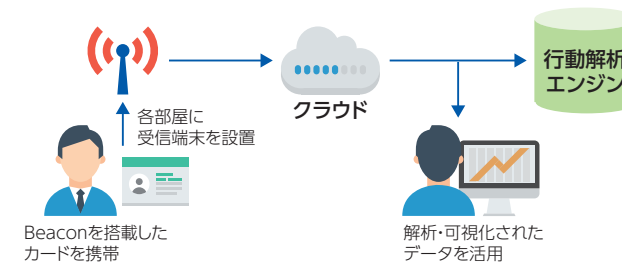
これまでの、位置情報システムを開発するシステム・インテグレーターや機器メーカーなどの要望に応じて、最適なデバイスを提供するビジネスモデルが主体でした。しかし、今後は市場の成長をより積極的に取り込むため、システム開発のより上流への参画を図ってまいります。

位置情報システムの開発には、ハードウェア（Beaconおよび受信システム、データ保管用のサーバー）だけでなく、用途や目的に応じたデータを集約し、管理・解析するソフトウェアが必要です。従来のお客様はもちろん、その先にあるシステム利用者とのコミュニケーションを強化することで、ハードウェア／ソフトウェア両面での提案力を強化していきます。

Pick Up

Beaconを用いた人流解析プラットフォームを開発し、新たな市場を創出

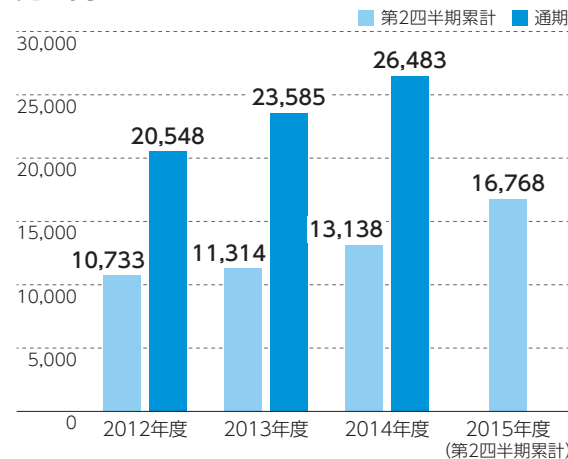
Beaconを用いた位置情報システムのなかでも、特に注目を集めているのが、ビッグデータ解析技術により、人の流れを分析して効率改善やマーケティングにつなげる「人流解析」です。イノテックでは、この分野の先進企業と提携して、ビル内のオフィスにおける人流解析プラットフォームの実証実験を行いました。この内容は「ワイヤレスジャパン2015」で発表され、大きな反響を集めました。



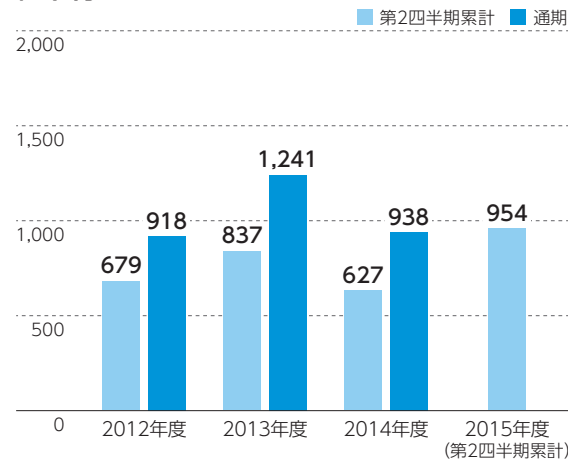
売上高 **167**億円 (前年同期比27.6%増)

経常利益 **9**億円 (前年同期比52.2%増)

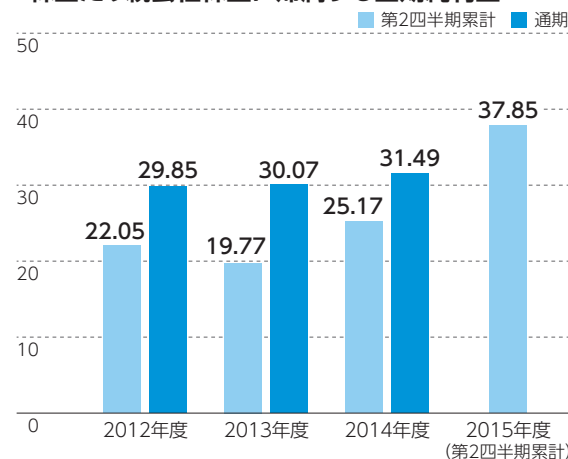
売上高 (単位:百万円)



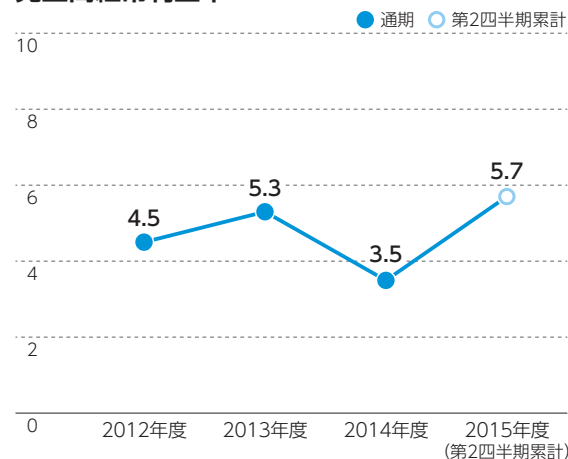
経常利益 (単位:百万円)



1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:円)



売上高経常利益率 (単位:%)



イノテックグループは、半導体デバイスの設計・開発工程に係るソフトウェアや技術サービスを提供する「設計開発ソリューション事業」と、半導体検査装置や各種デバイスを提供する「プロダクトソリューション事業」を両輪としています。

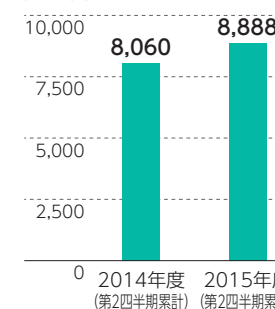
設計開発ソリューション事業 Design and development solutions business

売上高
構成比
53.0%

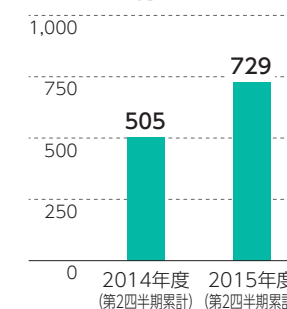
当第2四半期連結累計期間の概況

主力商品である半導体設計用ソフトウェアや自社製組込みボード、ガイオ・テクノロジーの機能検証ツールおよびエンジニアリング・サービスは、引き続き好調に推移しました。三栄ハイテックスのLSI設計受託ビジネスは、開発効率が一時的に落ち込みました。アイティアアクセスでは、受託開発が振るわなかったものの、組込みソフトウェアのライセンス販売が売上に寄与しました。

売上高 (単位:百万円)



セグメント利益 (単位:百万円)



※セグメント利益は、営業利益から各セグメントに配分していない全社費用などを調整したものです。

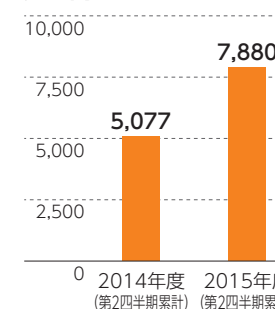
プロダクトソリューション事業 Product solution business

売上高
構成比
47.0%

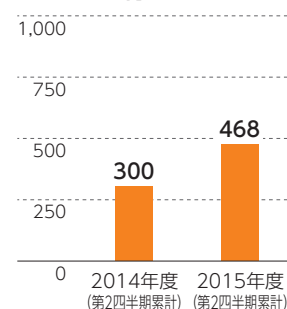
当第2四半期連結累計期間の概況

半導体検査装置については、海外向けの売上は横ばいでしたが、国内向けは引き続き好調に推移しました。また、STAR Technologiesでは、信頼性試験装置が堅調に推移し、売上に寄与しました。ハードディスク・ドライブや各種デバイスについては、OA市場やテレビ市場における受注回復などにより売上が増加しました。

売上高 (単位:百万円)



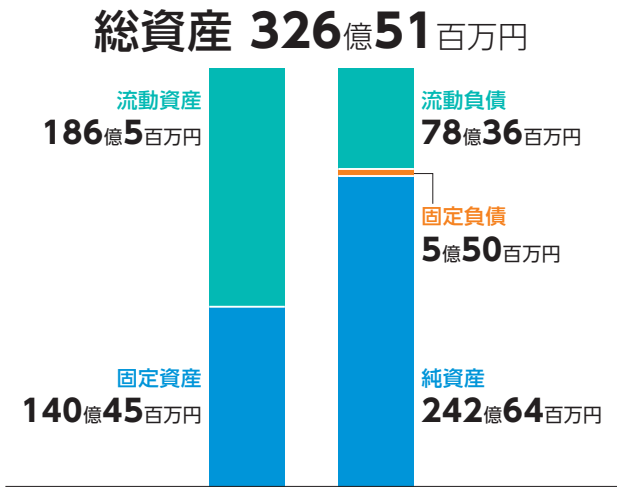
セグメント利益 (単位:百万円)



※セグメント利益は、営業利益から各セグメントに配分していない全社費用などを調整したものです。

四半期連結財務諸表(要旨)

◆ 四半期連結貸借対照表 (2015年9月30日現在)



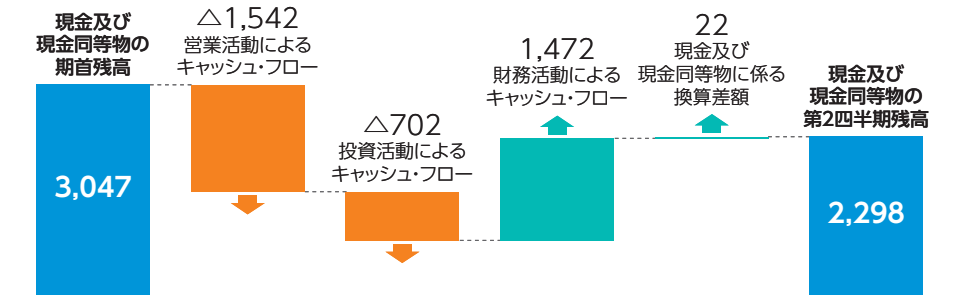
① 四半期連結貸借対照表のポイント

当第2四半期末の財務状態は、総資産が326億51百万円となり、前期末に比べ26億54百万円増加いたしました。これは、受取手形及び売掛金や商品及び製品が増加したことなどによるものです。

一方負債は21億42百万円増加し、83億86百万円となりました。これは、短期借入金や未払法人税等が増加したことなどによるものです。

純資産は5億11百万円増加し、242億64百万円となりました。この結果、自己資本比率は72.6%と前期末に比べ4.9ポイント低下いたしました。

◆ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円) (2015年4月1日～2015年9月30日)



株式の状況 (2015年9月30日現在)

◆ 株式の状況

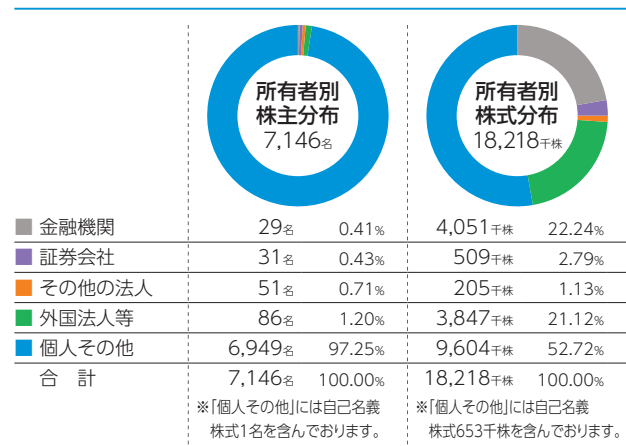
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	18,218,901株
株主数	7,146名

◆ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	752	4.28
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	722	4.11
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	705	4.02
CMBL S.A. RE MUTUAL FUNDS	674	3.84
CADENCE TECHNOLOGY LIMITED	456	2.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	428	2.44
株式会社みずほ銀行	420	2.39
イノテック社員持株会	331	1.89
株式会社三井住友銀行	320	1.82
第一生命保険株式会社	280	1.59

※持株比率は自己株式653千株を控除して計算しております。

◆ 所有者別株主分布・所有者別株式分布



※本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

会社概要 (2015年9月30日現在)

◆ 会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION
設立	1987(昭和62)年1月5日
資本金	105億17百万円
従業員数	連結 1,016人 個別 216人

本社	横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
大阪支社	大阪市中央区南本町二丁目6番12号 サンマリオンNBFタワー16階
物流センター	横浜市神奈川区三枚町33番 新横浜MTビル
台湾事務所	10F., No. 209, Sec. 1, Civic Blvd., Datong Dist., Taipei City 103, Taiwan

主なグループ企業

三栄ハイテックス株式会社
ガイオ・テクノロジー株式会社
アイティアアクセス株式会社
株式会社レグラス
ギガヘルツテクノロジー株式会社
STAr Technologies, Inc.
INNTECH FRONTIER, Inc.
INNO MICRO HONG KONG LTD.
INNO MICRO (SHANGHAI) LTD.

主な取引銀行	みずほ銀行 三井住友銀行 北陸銀行 三井住友信託銀行 横浜銀行 三菱東京UFJ銀行
--------	---

◆ 役員 (2015年9月30日現在)

代表取締役会長	澄田 誠	取締役(非常勤)	川島 良一
代表取締役社長	小野 敏彦	取締役(非常勤)	村瀬 光正
取締役	鐔木 祥介	取締役(非常勤)	松元 崇
取締役	高橋 尚	常勤監査役	中島 俊雄
取締役	大塚 信行	監査役	内藤 潤
取締役	棚橋 祥紀	監査役	田中 伸男
取締役	間淵 義宏		

※取締役の村瀬光正、松元崇は、社外取締役であります。

常勤監査役の中島俊雄、監査役の内藤潤および田中伸男は、社外監査役であります。

村瀬光正、松元崇、中島俊雄および田中伸男は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
単元株式数	100株

【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人
および特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〒168-0063
郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031

インターネット
ホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページにて公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。
<http://www.innotech.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

IRサイトのご案内

http://www.innotech.co.jp/ir/for_stockholder.html

イノテックは、株主の皆様とのコミュニケーションの一環として、IRサイトを開設しています。このサイトでは、業績・財務データや経営ビジョン・方針などを報告するとともに、「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを設け、当社のビジネスを分かりやすく説明しています。ぜひ、アクセスいただくとともに、ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。



本社：〒222-8580 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
Tel：045-474-9000(代) Fax：045-474-9089
URL：<http://www.innotech.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています

